

◎西貝塚・中泉めぐりコース

ヤマハスタジアム⇒ヤマハコミュニケーションプラザ⇒ひょうたん池⇒福王寺⇒開庭楼跡⇒田町旧レンガ倉庫⇒府八幡宮⇒遠江国分寺史跡公園⇒京見塚古墳⇒土器塚古墳⇒西願寺⇒中泉寺⇒御殿遺跡公園⇒大池



①ヤマハコミュニケーションプラザ

『ヤマハ・コミュニケーションプラザ』は、ヤマハ発動機創業以来の製品や技術、活動を一堂に集め、企業理念である「感動創造」実現のためにお客さまや社会との交流を一層深めていくことをめざし、創立40周年記念事業として企画。第43回の創立記念日にあたる1998年7月1日にオープンしました。同時に、世界中のヤマハ発動機グループ社員が企業理念や将来ビジョン、自社の「過去・現在・未来」を語りあいながら、新たな価値を創造していくコミュニケーションの場としても機能しています。



③福王寺

創建年代については不明。元は真言宗であったが、文安年間(1444~1648年)に曹洞宗に改宗する。本尊は聖観音菩薩立像。平安時代中期の陰陽家、阿倍清明が遠江国府に滞した時、祈禱により災厄を防いだ。この祈禱所が福王寺境内にあったと伝えられる。この故事から山号を風祭山という。境内には、鎮守として安部清明を祀る清明堂がある。



②ひょうたん池

ホテルを身近で観ることができる池。1日1、500トンという豊富な湧水量があり、多くの水性植物やトンボ、メダカなどの生物が生息している自然豊かな池である。施設には、観察水路、ホテル飼育・観察小屋、憩所(あずまや)、駐車場が整備されている。



④開庭楼跡

平成10年(1998年)まで同地田町の久保川端にあった料亭である。玄関口の建物は文政13年(1830年)建築のため老朽化、経営者は地震を心配して廃業した。歴史があるこの地を公園として残そうと地元住民が市と交渉し、現在は市の所有である。池とその周辺はそのまま残っており、どのような歴史公園に整備していくのか地元住民の意見を取り入れた事業が今



⑤田町旧レンガ倉庫

明治22年(1889年)中泉駅開設に伴い、プラットホームなどの建造で大量の煉瓦を使用するため、青山宙平が西新町の御林で煉瓦工場を創始した。大正後期には、中泉町に三戸の煉瓦工場があり年間37万3000個を製造していた。威容を誇るこの煉瓦倉庫は、中泉で製造された煉瓦などを貯蔵していた。



⑥府八幡宮

旧東海道、現在の天平通り沿いに、遠江国分寺跡と向かい合わせの位置に鎮座している。約1300年の歴史を誇っており、天平時代に国司として奈良の都から赴任した桜井王が勧請したと伝えられている。当時、現在の御殿地域に国府が置かれていたため、府八幡宮と称したと考えられる。桜井王は万葉集に聖武天皇との問答歌が残されている。



⑦遠江国分寺史跡公園

奈良天平の時代に聖武天皇が発した国分寺建立の詔天平13年(741年)は、全国に国分寺と国分尼寺を建てさせた。遠江国では、すでに国府が置かれていた磐田の地に建てることとなった。現在の市役所の北側がその場所である。明確な建立年は定かではないが、戦後早くから同地の発掘調査が行われた結果、全国でも貴重な歴史的な価値が認められたため特別史跡に指定された。七重の塔、金堂を初めとする壮大な伽藍が古代の磐田に存在していたのである。



⑧京見塚古墳

5世紀中頃に造られた直径47mの円墳で、大正11年(1922年)に調査が行われ、周辺からは小円墳や埴輪焼成窯、旧石器時代の集落跡遺跡なども発見されている。発見された古墳はこれらが復元され、公園となっている。墳丘からは、天竜川が一望できる。この地に住んだ成成皇子(桓武天皇の第四皇子)が、塚の上から京を偲んだため、「京見塚」と呼ばれるようになったと言われている。



⑨土器塚(かわらけつか)古墳

古墳時代中期(5世紀前半)の円墳で、直径約36m、高さ約5m、周囲には幅約7mの溝(周溝)があります。付近にある土器(かわらけ)塚古墳は、墳形をよく残している。東西方向に長さ7~8m、幅1mの穴に棺をおさめ、周囲からは管玉1、よろいの破片が発見されています。



⑪中泉寺

写真は臨済宗・中泉寺で、かつての中泉陣屋の旧門が移築されています。大池山・中泉寺・山号は徳川家康が付けたといわれています。臨済宗・本尊は虚空菩薩。永禄5年(1562)開山。青山土のお墓がある。



⑩西願寺

門は徳川家康の別荘「中泉御殿」の裏門と伝えられ、御殿の廃止後に移築されました。市の文化財に指定されています。



⑫御殿公園遺跡

御殿・二之宮遺跡は(略)弥生時代から中世・近世にかけて営まれた遺跡です。特になら時代には、文字の書かれた木札や土器(木簡・墨書土器)が出土していることから、この地に遠江の国の役所が置かれていたと推定されていました。1578年(天正6)浜松城に在った徳川家康が鷹狩の際の宿泊・休憩所として、現在の磐田駅南地域(磐田市中泉)に建築したのが中泉御殿で、1606年(慶長11)3月、駿府城に隠居し、没するまでしばしばこの御殿を訪れていたという。



⑬大池

秋から冬にかけてさまざまな渡り鳥を観察することができる。大池はJR磐田駅の南約1kmにあり、住宅地と農地の境に位置する10haほどの広さの四角い形をしたかんがい池である。数年前に、野鳥観察用の遊歩道が一部整備された。大池は淡水性の池であるが、潮の干満により水位が上下する内陸性干潟という珍しい環境を有している。